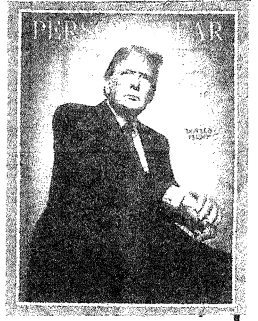


九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.417
2025(令和7)年1月20日(月)発行



20日に就任したトランプ大統領が不安です！「福島第一原発事故の土地には3千年入れない」、カナダはアメリカの51番目の州になれ、グリーンランドやパナマ運河をよこせ、パリ協定やWHOからの離脱など、アメリカ第一主義で日本も世界も振り回されるのか不安です。「タイム誌・2024今年の人」の表紙▶

今年(2025)は昭和元年から100年、広島長崎の原爆投下・終戦から80年

○今年(2025)は西暦2025年、東京大空襲や広島と長崎の原爆投下、アジア・太平洋戦争(第2次世界大戦)の終戦からちょうど80年の節目の年で、記念行事も多いようです。

大日本帝国憲法は58年間の施行でしたが、現在の日本国憲法は施行から78年!

大日本帝国憲法(58年間)
1889(明治22年)2月11日公布
11月29日施行~昭和22年5月2日

日本国憲法(施行から78年)
1946(昭和21年)11月3日公布
昭和22年5月3日施行~



<1868年の明治維新から 今年2025年で158年>
<1945年の終戦から今年で80年>

【昨年の総選挙】 国民は自公政権を否定し、9条改憲を阻止した!

石破政権下で“改憲”の動きはどうか?

- 昨年11月の総選挙で、自民公明の議席は過半数を割り少数与党になりました。
- 自民党は結党70年の今年、「緊急事態条項の創設・9条に自衛隊の明記」など改憲をめざし、今年夏の参院選までに通常国会で改憲発議をするのが狙いでした。
- 総選挙で少数与党に転落したのは、国民の「戦争は絶対いやだ!」「9条は大事で、改憲など必要ない」「生活が大事」というのが国民の意志で、裏金や企業献金に反省もない自民党への国民の怒りや不満の表れです。
- 石破首相は「所信表明演説」でも改憲はわずか数行で、全く改憲の意欲は感じられません。



韓国の“非常戒厳”、日本も「緊急事態条項」加憲で起こること

昨年12月3日午後10時半、韓国の尹錫悦(ユンソンニョル)大統領が「非常戒厳」を宣布、6時間後に解除されましたが、大統領の権限で言論・出版・集会・結社の自由などを制限できる内容です。これは韓国でのお話ですが、もしも日本も「緊急事態条項」が憲法に加えられたら、首相の一存で発令され国内の民主主義が大きく侵される事態になります。無知や無関心ではられません。

石破首相が「所信表明演説」で石橋湛山首相の「演説」を引用

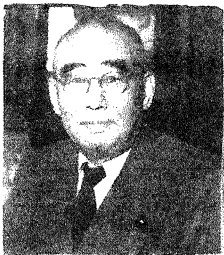
○昨年11月29日の臨時国会で石破茂首相は「所信表明演説」の中で、昭和32年2月4日の石橋湛山首相の「演説」を <下記>のように引用し話題になりました。

- ①冒頭・民主主義のあるべき姿 「率直に意見をかわす慣行を作り、相互に協力を惜しまず、世界の進運に伍（ご）していくようにしなければならない」
- ⑥結語 「国民全体の福祉をのみ念じて、論議を尽くしたい」

○この引用は、石破茂首相が石橋湛山首相を敬愛していたからなのか、それとも石破首相の誕生日がこの石橋湛山首相の演説当日1957（昭和32）年2月4日だったからでしょうか。

◆ 68年前の内閣総理大臣石橋湛山 たんざん 首相が注目です

病気で倒れ短命内閣に、岸信介内閣が後継



○石橋湛山首相（1884～1973）は、1956（昭和31）年12月14日の総裁選挙で岸信介を破り、12月23日第55代総理大臣に就任しました。
○しかし、翌昭和32年1月急性肺炎のため倒れ2月23日に退陣して、65日間の短い内閣でした。そして翌々25日に居抜き内閣として発足するのが岸信介首相ですが、石橋湛山とはまるで正反対の政治を行います。

岸内閣でなく石橋内閣が続いていたら、全く違う日本になっていた？

<石橋湛山の主張や政策、ことば>

戦前 <日本は主要四島でやっていけるし、満州朝鮮台湾などの植民地を持たないで、異民族を解放し自治を与えることだ。平和主義により学問技術と産業の進歩に注ぐ。兵營の代わりに学校を、軍艦の代わりに工場を設ける>

戦後 <占領軍や米国の言いなりにならない。国際協調主義で国連を重視、戦争を絶滅し世界に恒久平和を実現するにはナショナリズムを絶滅するしかない。戦争放棄は日本だけでない大胆至極の決定で、我が国是である。>

○「私がいまの政治家諸君に痛感するのは『自分』が欠けている点、『自分』とはみずからの信念だ。政治家の最もつまらないタイプは、自分の考えを持たない政治家だ。金を集めることが上手で、大勢の子分を抱えているのは本当の政治家ではない。」

<岸 信介とは>

東条英機内閣の商工大臣として満州国統治を先導し、アヘン売買や汚職の疑惑も強かった。戦争に対する真摯な総括や反省が全くない。A級戦犯被疑者として3年半拘留後釈放され米国CIAのエージェントとして暗躍。第56・57代首相。「政治は力であり、金だ」と語り、「自主憲法の制定」「反共と対決」「統一協会と連携」「日米安保体制中心の外交」を推進し、戦後日本の形を決定した。安倍晋三の祖父。



<<Wikipediaより>>

<湛山に関する出版も多く、2023年6月には超党派の「石橋湛山研究会」も発足しています>



◀田中秀征、佐高信『石橋湛山を語る』集英社文庫 ¥1050税
元衆議院議員の田中秀征と佐高信の対談。もしも湛山内閣が続いていたら、現在の日本は理想的な国になっていたと推測。湛山の後継者として田中角栄と中村哲という考察も興味深い。

半藤一利『戦う石橋湛山』ちくま文庫 ¥940税▶
戦前軍部を批判し屈せず、戦後も占領軍と対立して戦い抜いた湛山を「信念の大人物」と、ジャーナリズム批判の面から分析。

